

# 基地の島、沖縄の今を考える 返還交渉当事者

## モートン・ ハルペリン氏 を囲んで

モートン・ハルペリン (Morton H. Halperin)  
(元米国家安全保障会議 (NSC) スタッフ)  
プロフィール

1938年生まれ。1966年から69年にかけて、米国防総省の上級担当官として沖縄返還交渉に関わり、米国側の方針をまとめ、日本側と交渉にあたる。その後も外交安全保障の専門家として、ニクソン政権時に国家安全保障会議メンバー、クリントン政権時に大統領特別補佐官などを歴任。在沖米軍基地に関して沖縄の負担は軽減すべきとし、普天間基地の辺野古移設に反対。また日本の特定秘密保護法についても、国際基準に則していないと繰り返し指摘し、沖縄の核密約についても国民には知る権利があると主張。



2014年

# 9月18日 木

琉球新報ホール (泉崎ビル)

開場 18:30 開演 19:00

参加費：前売り 700 円、当日 800 円  
(ND 会員・学生は無料、当日入会可)

※前売り券は、新報本社 (那覇市天久)、  
中部支社 (沖縄市仲宗根町)  
北部支社 (名護市港) で販売します。  
※ND 会員の方は、受付でその旨お伝えください。

琉球新報ホール  
住所：〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎 1-10-3

〈モノレールでお越しの場合〉  
県庁前駅下車 徒歩約 6 分  
旭橋駅下車 徒歩約 6 分  
〈バスでお越しの場合〉 那覇バスターミナル下車  
徒歩約 5 分 県庁北口から徒歩 2 分  
〈お車でお越しの場合〉

NPC24H リウボウくもじ駐車場パーキング  
リウボウ・くもじパーキング

※当日は混雑が予想されますので、余裕を持って開演 30 分前には会場にお越しいただきますようお願いいたします。

1972年、沖縄が日本に返還され、沖縄の基地負担の軽減が期待されました。しかし、42年の時が経ち、日本、米国、沖縄を取り巻く環境が大きく変化した今でも、沖縄は依然として過重な基地負担を負っています。さらに今、辺野古への普天間基地移設も進められようとしています。米国の戦略上、なぜ大規模な基地を残したままの返還が必要だったのか、その後、何が変わり何が変わらないのか、新基地は必要なのか。沖縄返還交渉の米政府当事者モートン・ハルペリン氏が、沖縄をめぐる現状、米軍基地の存在について論じます。

登壇者

基調講演 モートン・ハルペリン氏  
(元米国家安全保障会議 (NSC) スタッフ)

パネルディスカッション

モートン・ハルペリン氏  
大田昌秀氏 (元沖縄県知事)  
佐藤学氏 (沖縄国際大学教授)

司会・コーディネーター

潮平芳和 (琉球新報編集局長)  
猿田佐世 (弁護士・新外交イニシアティブ事務局長)



大田昌秀氏



佐藤学氏



猿田佐世

